

説明的文章と描写的文章の違いにおける 物語理解とイメージに関する研究

佐藤公代

(教育心理学研究室)

(平成5年10月12日受理)

問題と目的

子どもの精神発達にとって、読書の重要な役割があることは周知の通りである。渋谷清視(1988)は、読書体験の蓄積を通して、子ども達に「人間らしいみずみずしい感情と、柔らかで旺盛な想像力とを身につけさせる」ことになるとしており、橋詰淳子(1985)は、本を読んで育った子は、「本を読んで、言葉からイメージ構成する能力」だけでなく、「想像力や創造力、文章を書く力」などを養成する、と述べている。

子どもの成績をあげるために本を読ませ、読書はあくまで受験勉強のひとつと考えたり、「教科書万能主義」をとえたりする親がいる。

読書の好きな子は成績が良いといわれる位、本を読むことは確かに重要である。しかし、どんな本でもたくさん読めばいいというものでもない。本にも良い本、悪い本がある。現在は、氾濫するほど本が出回っている。同じ物語でも、何種類もの物語が存在することもある。学校の教科書用書き直したり、外国の名作、日本の民話や昔話などを再話したり、翻訳したりする。

代田昇(1976)は、「世界の名作のうち70%以上が再話、翻案、抄訳であり、購買者の年齢の幅を広げるために、幼児用の絵本にするなど、購買者の無知につけこんだ悪しき商業主義が産んだ産物である。」と述べている。

松居直(1978)は、「再話に関して、再話者の考え方、再話者の原話の読み方、再話者の持っている文体、あるいは原話の細部や人物に対する解釈の仕方によって作品が違ってくる」と述べている。

遠藤豊吉(1976)は、「再話について民話の再話であるから、その原型をゆがめないかぎり、だれがどのような方法を使って書いても現代版として通用する。しかし、G社教科書版の『かさじぞう』は、わたしが読んだいくつかの『かさじぞう』の中で、最低の部類にぞくする。」と述べている。

黒沢浩(1976)は、本を選ぶ場合、「大人は、子どもの手のとどくところに、本ものの本を用意して、子どもが、自主的に本を入手できるようにすることが大切である」と述べて、良い本を選ばせている。

佐藤公代(1986)は、詳細型とあらすじ型の違いが、物語理解や登場人物のイメージに与える影響について検討した。詳細型といっても、何を詳しく書くかによって違いは生じると思われる

ので、本研究では、同じ物語を登場人物や行動を説明的に書いた場合と、情景や登場人物の行動や生活の様子を細かく書いた場合について検討する。

石上正夫(1986)は、『かきじぞう』(文・岩崎きょうこ、絵・あらいごろう、ポプラ社)と国語教科書『かきじぞう』を比較して、『かきじぞう』は、おじいさん、おばあさんについて「やさしい」と表現しており、これは優しさの押しつけで、子どもの想像力を減退させてしまい、また、地蔵様に笠をかぶせる場面では、『かきじぞう』のかぜでとばぬよう、しっかり、あごのところでむすんであげましたという、その様子が肌で感じられるような表現に比べて、『かきじぞう』の1つ1つていねいにかきをかぶせて、という表現は説明的である」と述べている。

遠藤豊吉(1976)は、G社の『かきじぞう』と、瀬田貞二の『かきじぞう』(福音館書店)の形象性について比較している。それによると、「教科書の『かきじぞう』では、理由はこうであるという文の構造だが、瀬田の『かきじぞう』は、笠が売れない理由を説明によって無理にではなく、形象を通して、そうえがかなければ、それこそ話にならぬイメージとしてわかるのである。つまり、瀬田の『かきじぞう』は、形象性が高く、子どもたちに迫ってくる」と述べている。又、遠藤(1976)は、「『桃太郎』について、時代によって語りかえられているのは、『桃太郎』という話は、有名だけれども文学的に形象度が弱いのではないか、桃太郎の人物像がはっきりしていないのではないか、それに比べ、『グリム童話』は、見事な文学としての形象度をもった作品であり、だれも手を加えることができない、完成度の高い昔話だ」と述べている。

このように、形象性の高い文章と、低い文章では、物語を読んだ時のイメージが違ってくると考えられる。そこで、本研究では、同じ物語の説明的文章(同じ物語を説明的に書いた文章)と、描写的文章(情景や登場人物の様子を丁寧に書いた文章)について、形象性にも注目しながら、それらの違いが、物語の理解や登場人物のイメージだけでなく、登場人物の生活の様子や物語中の場面のイメージにどのような影響を及ぼすかについてとらえる。

実 験 I

1) 目 的

大学生を対象にして、物語の文章に注目し、同じ物語でも説明的に書かれた文章を読んだ場合と、描写的に書かれた文章を読んだ場合では、どのように違いをとらえるかについて、同じ物語について描かれた2種類の文章を使って比較する。

2) 仮 説

- ①想像力を呼び起こし、鮮明にイメージでき、登場人物の行動や思いが伝わってくる文章として、描写的文章を選ぶ人が多く、説明的文章として、説明的文章を選ぶ人が多いだろう。
- ②説明的文章では、文中の優しいという表現から、おじいさんとおばあさんがやさしいと思う人が多いだろう。

3) 方 法

①期間

1991年6月下旬

②被験者

E 大学教育学部 3, 4 回生, 計180名。

③材料

説明的文章として「かさじぞう」(国語教科書2年下, G社), 描写的文章として「かさこじぞう」(文・岩崎京子, 絵・あらいごろう, ポプラ社)を用いる。

④手続き

物語を読んだ後, 説明的文章と描写的文章についての質問に解答してもらう。

⑤結果の処理方法

説明的文章と描写的文章の違いについて, それぞれの解答を人数で示す。

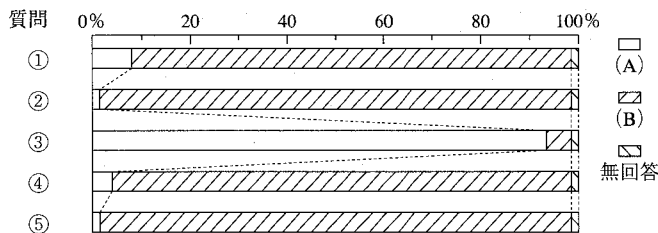
付表1に説明的文章と描写的文章の違いについてみるための質問を示す。

説明的文章の理解をみるための質問について解答を延べ人数で表す。

付表2に説明的文章の理解問題を示す。

結果と考察

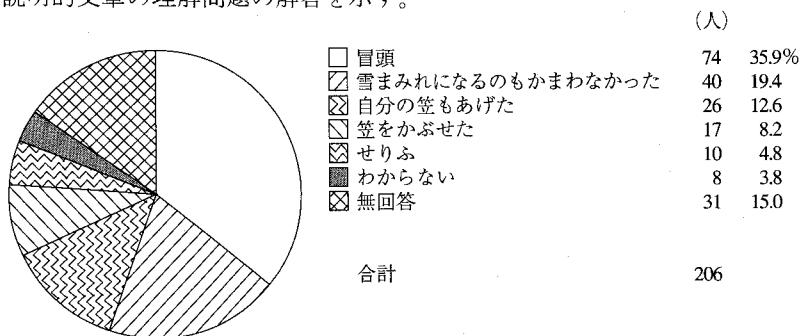
Fig. 1 に2つの物語に関する質問の解答を示す。



〈Fig. 1〉2つの物語に関する質問の解答の割合 (%)

Fig. 1 から, ①, ②, ④, ⑤では, ほとんどの人がBを選んでおり, すべて1%水準で有意差がある。このことから, 2つを読み比べてBの方が, 登場人物の行動や心情をより鮮明なイメージとして思い浮かべられるといえる。③では, Aを選んでいる人が多く, 1%水準で有意差がある。このことより, AはBと比べて説明的であるといえる。よって, 仮説①は支持される。つまり, 描写的文章は, 想像力を呼び起こし, 鮮明にイメージしやすく, 登場人物の行動や思いが伝わってくる文章であり, 説明的文章は, 説明的である。

Fig. 2 に説明的文章の理解問題の解答を示す。



〈Fig. 2〉説明的文章の理解問題の解答の割合 (%)

Fig. 2 から、おじいさん、おばあさんが優しいと思った理由として、文中の「やさしい」という表現をあげるものが多い。おじいさんについては、行動をあげるものもいたが、おばあさんについて答えている者は少ない。その中では、冒頭の「心のやさしい、おじいさんとおばあさんが」の部分あげるものが多い。おばあさんについてはあまり記述がないので、「おばあさんはわからない」という回答も多い。よって、仮説③は支持される。

実 験 II

1) 目 的

幼児を対象にして、描写的文章と説明的文章が、物語理解や登場人物のイメージだけでなく、生活の様子や物語中の場面のイメージに及ぼす影響について検討していく。

2) 仮 説

- ①理解問題における正解率は、年齢の高まりと共に高くなり、条件II（説明的文章）の方が、条件I（描写的説明）よりも高くなるだろう。
- ②心情テストにおける正解率は、年齢の高まりと共に高くなり、条件I（描写的説明）の方が条件II（説明的文章）よりも高くなるだろう。
- ③イメージは、条件I（描写的説明）の方が条件II（説明的文章）よりも多様だろう。
- ④感想は、条件I（描写的説明）の方が条件II（説明的文章）よりもおじいさん、おばあさんみたいになりたがるだろう。

3) 方 法

①期間

1991年7月9日

②被験者

松山私立E幼稚園、年中児39名、年長児33名、計72名。

③材料

実験Iと同様である。

④手続き

年中児・年長児を年齢と性別を考慮して、等質な2グループにする。その内訳をTable 1に示す。そして、個別実験として、被験者に、条件に合った文章の話を書き居形式で読み聞かせ、その後、理解問題、心情テスト、イメージの質問、感想の順に質問していく。

⑤条件群

第I群：描写的文章の「かさこじぞう」を読み聞かせる群

第II群：説明的文章の「かさじぞう」を読み聞かせる群

⑥課題とその得点化

<Table 1> 各条件ごとの人数(人)

年齢	条件 I		条件 II		計
	男	女	男	女	
年 中 児	11	9	10	9	39
年 長 児	10	8	10	5	33
計	38		34		72

課題を付表3, 4, 5, 6に示す。

(a)理解問題

正答の場合, 1問1点とし, 誤答, 無答は0点とする。6点満点。

(b)心情テスト

理解問題と同様。4点満点。

(c)イメージ

それぞれの反応別に人数をまとめる。

(d)感想

「なりたい」と答えたら3点, 「どちらでもない」と答えたら2点, 「なりたくない」なら1点とする。

結果と考察

Fig. 3 に理解問題における各年齢, 各条件群における理解率を示す。

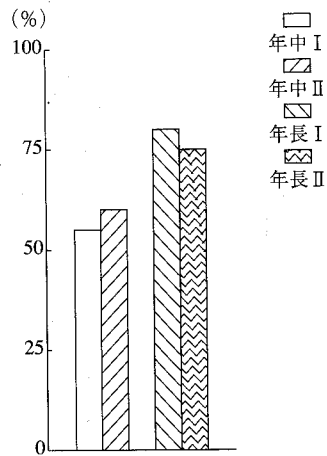
Fig. 3 から, 年中児は条件IIの方が高いが, 年長児は条件Iの方が高くなっている。これは, 年中児には, 説明的文章の方が物語の粗筋がわかりやすいため, 条件IIの方の理解率が高いが, 年長児になると, 情景や登場人物の行動について細かく描かれた描写的文章の方が, 場面をイメージしやすく, 物語の理解をより深め, 理解率も高くなっている。

Fig. 4 に各問いごとの理解率を示す。

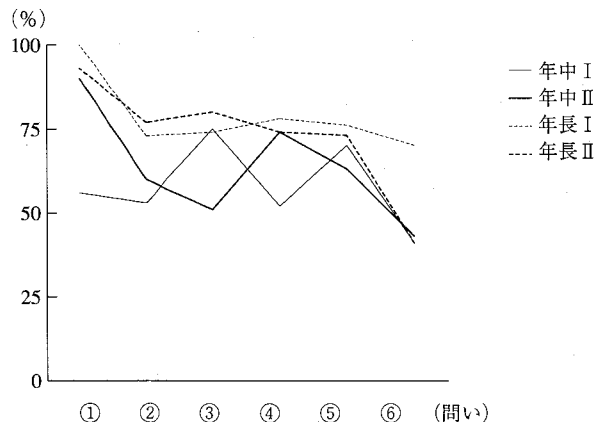
Fig. 4 から, 問い②では, 年中児も年長児も条件IIの方の理解率が高くなっている。これは, 条件IIでは, 文章中に「さむそうに」という表現があるためだと思われる。問い④で年中児の条件IIの方の理解率が高いのは, 最後の地蔵様にかぶせたのが, 条件IIでは自分の笠をかぶせているが, 条件Iでは自分のつぎはぎの手ぬぐいをかぶせたので, その迷いがでたのではないかと思われる。

Table 2, 3 に問題⑤・⑥に対する解答を示す。

Table 2, 3 から, 有意差はないものの, おじいさんについて, 条件IIで「いっていたから」と答



〈Fig. 3〉理解問題における各年齢, 各条件間の理解率



〈Fig. 4〉理解問題における各年齢・各条件の各問いごとの理解率

〈Table 2〉理解問題の問い⑤の解答(人)と有意差検定

年齢	選択肢 条件	a	b	c	有意差検定
	年中児	I	0	3	
	II	1	2	12	
年長児	I	0	4	14	5.70
	II	2	0	11	

- a 言っていたから
- b 笠を売りにいったから
- c 地蔵様に笠をかぶせてあげたから

〈Table 3〉理解問題の問い⑥の解答(人)と有意差検定

年齢	選択肢 条件	a	b	c	有意差検定
	年中児	I	0	5	
	II	0	4	8	
年長児	I	0	6	12	0.43
	II	0	5	6	

- a 言っていたから
- b 笠をあんだから
- c おじいさんが地蔵様に笠をかぶせたことを聞いて誉めたから

えている者がいる。このことから、登場人物の人格の説明がある説明的文章では、その人物に対して、自分なりのイメージを思い浮べるのではなく、文章から“こういう人”と受け取る者もいる。よって、仮説①は年長児については支持されない。

次に、年齢間では、条件Iにおいて、5%水準で有意差があり、条件IIにおいては有意差はみられないものの、年長児の方が理解率が高い。各問いごとにみても、条件Iでは問い③で、条件IIでは問い④と⑥がほぼ同じである他は、年長児の方の理解率が高い。よって、仮説①は支持される。

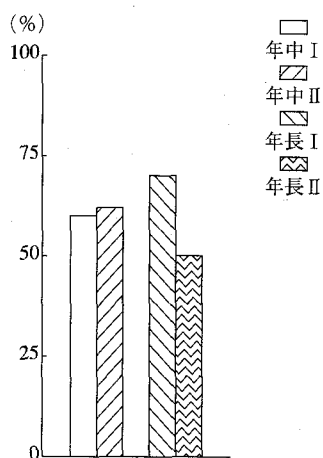
Fig. 5 に心情テストにおける各年齢、各条件群の理解率を示す。

Fig. 5 から、年中児では条件IIの方がやや高く、年長児では条件Iの方が高い。

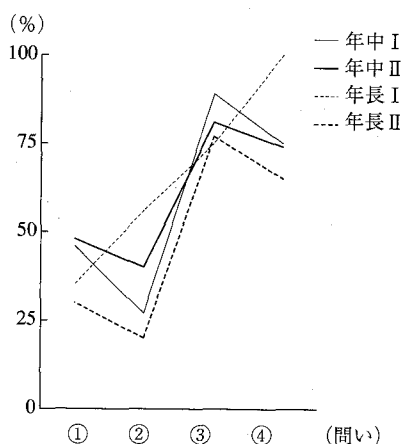
Fig. 6 に各問いごとの理解率を示す。

Fig. 6 から、年長児では問い③では条件IIがやや高いものの、その他では、条件Iの方が条件IIよりも理解率が高くなっている。年中児では、問い②で条件IIの方が高く、問い①がほぼ同じ他は、条件Iの方が高くなっている。つまり、

年中児では、文章の違いによる影響は小さいが、年長児においては、文章の違いによる影響は大きい。これは、年長児になると、情景や登場人物の行動の詳しい記述を手がかりにして、登場人



〈Fig. 5〉心情テストにおける各年齢、各条件間の理解率



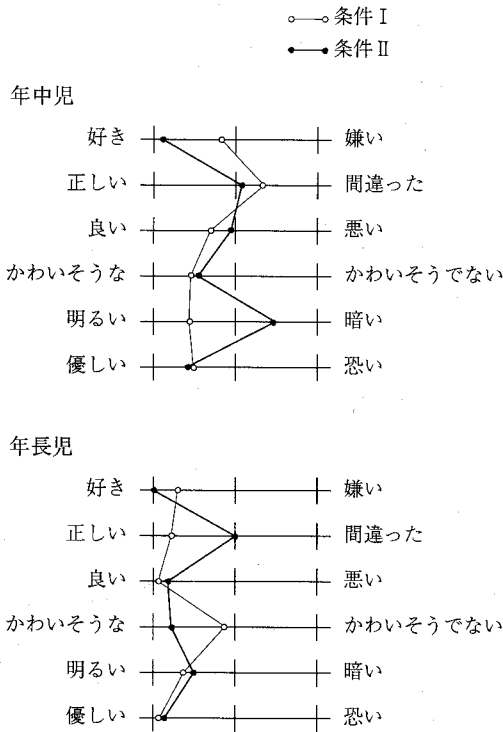
〈Fig. 6〉心情テストにおける各年齢・各条件の各問いごとの理解率

物の心情をより理解できるようになるからだろう。年長児には説明的文章の物語を読みきかせるより、描写的文章を読みきかせる方が心情理解に有効である。よって、仮説②は年長児に支持される。

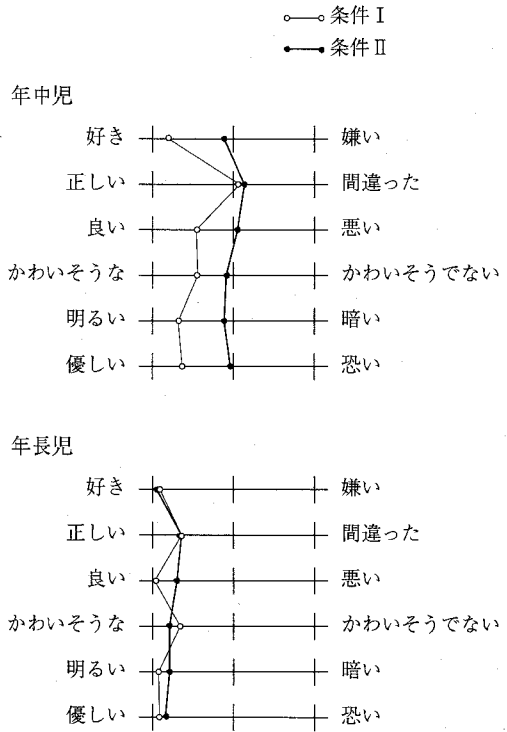
次に、年齢間についてみると、有意差はないものの、条件Ⅰでは、年中児より年長児の方が、条件Ⅱでは、年長児より年中児の方が心情理解が高くなっている。各問いごとにみても、年長児の条件Ⅱはどの問題においても理解率が低くなっている。

Fig. 7 におじいさんの条件別のイメージを示す。

Fig. 7 から、年中児では、「良い—悪い」「かわいそう—かわいそうでない」「優しい—怖い」の尺度では、ほぼ同じイメージである。条件Ⅰは「明るい」、条件Ⅱは「好き」ととらえており、「好き—嫌い」の尺度に5%水準で有意差が認められる。年長児では、共通したイメージは「良い」「明るい」「優しい」で、条件Ⅰでは「正しい」ととらえ、条件Ⅱでは「好き」「かわいそう」ととらえている。「好き—嫌い」の尺度では5%水準、「正しい—間違った」「かわい



〈Fig. 7〉各年齢における各条件のおじいさんのイメージのプロフィール



〈Fig. 8〉各年齢における各条件のおばあさんのイメージのプロフィール

そうな—かわいそうでない」の尺度は1%水準で有意差がある。

Fig. 8 におばあさんの条件別のイメージを示す。

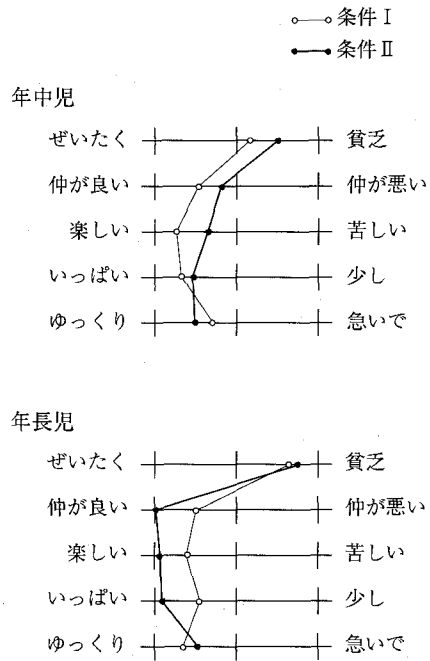
Fig. 8 から、年中児では「正しい—間違った」の尺度に1%水準で有意差が認められる。また、条件Iでは「好き」「良い」「かわいそうな」「明るい」「優しい」ととらえている。年長児では、共通イメージは「好き」で、条件Iは「良い」「明るい」「優しい」ととらえ、条件IIは「かわいそうな」ととらえている。

Fig. 9 に2人の生活や物語中の場面についてのイメージを示す。

Fig. 9 から、2人の生活については、年中児では、条件Iが「仲がよい」「楽しい」、条件IIが「貧乏」ととらえている。年長児では、「仲が良い—仲が悪い」「楽しい—苦しい」の尺度に5%水準で有意差がみられ、共通イメージは「貧乏」である。物語の場面については、年中児は、ほとんど差がなく、年長児は「いっぱい—少し」の尺度では条件IIが、「ゆっくり—急いで」の尺度では条件Iが強い。

以上のことより、おじいさんについては、年中児には、おじいさんとおばあさんの会話がたくさんある描写的文章は、「明るく」感じ、年長児になると、詳しく記述された文章から、おじいさんは「正しい事」をしていると判断できるようになる。そのため「かわいそう」というイメージが弱まっている。おばあさんについては、年中児では、全ての尺度において、条件Iの方が強くなっている。描写的文章では、おばあさんの会話や行動も多く描かれているが、説明的文章では、おばあさんに関する記述が少ないからだと思われる。「正しい—間違った」の尺度で有意差がみられるのも、説明的文章では記述が少ないので判断がしにくかったのではなかろうか。年長児では、条件間の差が小さくなっているが、「かわいそう—かわいそうでない」の尺度では条件IIの方が強くなっている。年長児では描写的文章で「良い」ことをしていると強く感じることで、あまり「かわいそう」ととらえなくなるのだろう。

2人の生活のイメージについては、年中児では、条件Iは「仲が良」く、「楽しい」ととらえている。年長児では、条件IIが「仲が良」く「楽しい」ととらえている。各条件、各年齢に共通なイメージは「貧乏」である。物語中の場面のイメージは、年中児では、あまり差がなく、年長児では、条件IIは雪は「いっぱい」降っていたととらえている。2人の生活の様子は、年中児では、情景を詳しく描いた描写的文章の方がイメージが強くなるが、年長児になると、説明的文章でも十分イメージすることができるようになり、かえって「貧乏」だが「仲がよい」といった表面的



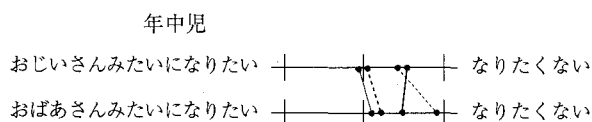
(Fig. 9) 各年齢における各条件の場面のイメージのプロフィール

なイメージは強くなる。

場面のイメージは、文章の違いによる影響はあまりないといえる。これは、どちらの文章でも記述されている場面を選んだためと考えられる。

おじいさんとおばあさんの条件間の違いを比べてみると、おじいさんは、条件IとIIでプロフィールの型が違っているが、おばあさんは、型は似ているが、イメージの強さが違っている。これは、主人公のおじいさんは、文章の違いによってイメージが違ってくるが、おばあさんは、説明的文章ではあまり詳しく描かれていないので、イメージが弱くなり、描写的文章との差がでたのであろう。よって、仮説③は支持され、文章の違いによる影響は、登場人物のイメージや生活のイメージに影響がある。

Fig. 10に各年齢、各条件の感想についての質問に対する解答を示す。



〈Fig.10〉各条件・各年齢の感想についての質問に対する回答

Fig. 10から、おじいさん、おばあさんとともに、年中児では有意差がみられるほどではないが、条件Iの方が条件IIよりもなりたがっており、年長児では条件間の差はあまりみられない。よって、仮説④は年中児に支持される。

結 論

- ①大学生において、描写的文章は、イメージしやすく、登場人物の行動や思いが身近に感じられ、想像力を呼び起こすきめの細かい文章であり、説明的文章は、説明的であり、きめが粗い。
- ②大学生において、説明的文章の人物の捉え方では、登場人物のイメージを自分の中で描いて物語を読むのではなく、文章中の説明を手がかりにして登場人物の人物像をつくりあげる。
- ③幼児において、年中児では説明的文章の方が、年長児では描写的文章の方の理解問題の正答率が高い。
- ④幼児において、心情テストの正答率は、年中児はほとんど差がないが、年長児は描写的文章の方の正答率が高い。年長児は、登場人物の気持ちや行動を説明的に書いた文章では、与えられた言葉から「こういう人」と理解するだけに終わってしまうので、文章中に記述のあった事柄については理解率は高いが、記述のない事柄については理解率は低くなる。しかし、情景や登場人物の生活や行動の様子を詳しく描かれた文章を手がかりに、自分なりに物語を読み深めていくことができるようになるので、物語を描かれてない部分まで自分なりに考え、理解することができるといえる。年中児は、描写的な文章を手がかりにすることがまだできず、説明的な文章の方が理解しやすいといえる。
- ⑤説明的文章では、おじいさんは「好き」だけ「かわいそう」と、単純で表面的な描写的文章では、おじいさんは「正しい」ことをしているので「かわいそうでない」と、より深いイメージをもっている。説明的文章では、登場人物や生活の様子説明のある文章を読んで、そのまま「こういう人」で「こういう生活」と受けとめるため、自分なりのイメージは広がっていかず、

また、細かい描写のない簡潔な文章なので、その印象がより強まる。描写的文章では、直接的な記述はなく、行動や情景の細かな描写から、その人なりに登場人物のイメージをふくらませていくことができる。

- ⑥登場人物のイメージについては、主人公であるおじいさんと、脇役であるおばあさんでは、違った影響がみられる。おじいさんは、描写的文章と説明的文章では、イメージのプロフィールの型に違いが現われたが、おばあさんは、プロフィールの型は似ているが、イメージの強さに違いがある。描写的文章は“こうである”という理由を説明するのではなく、細かな描写によって裏付けているので、物語の世界が身近に感じられ、読書も入っていきやすく、読者なりのイメージをもつといえる。説明的文章は、説明されたことについて、文章からイメージを与えられることになるので、読者が受け身となり、読者が一様のイメージをもつ。

参 考 文 献

- 遠藤豊吉, 1976 市販テストは教科書か ひと VoL. 4 No.2 3-10 太郎次郎社刊
 橋詰淳子, 1985 読書で育つ子供のやる気 文理書院
 石上正夫, 1986 父母と教師のための子育て読書をどうすすめるか 青木書店
 黒沢 浩, 1976 親子読書相談室 岩崎書店
 松居 直, 1978 絵本をみる眼 日本エディタースクール出版部
 佐藤 公代, 1986 思考の発達に関する研究—文章の相違による物語の理解やイメージの比較について—愛媛大学教育学部紀要 第I部 教育科学 第32巻 21-45
 渋谷清視, 1988 いまこそ子どもに読書の喜びを 岩崎書店
 代田 昇, 1976 親子読書相談室 岩崎書店

付表1 説明的文章と描写的文章の違いについてみるための質問

(A)「かさじぞう」と(B)「かさこじぞう」を読み比べて、次の問いに答えて下さい。

- ①どちらがより鮮明にイメージ化できるか。
- ②お爺さんの行動や思いが肌で感じられるように描いているのはどちらか。
- ③説明的文章で、きめの荒さがあるのはどちらか。
- ④想像力を呼び起こす、きめの細かい表現はどちらか。
- ⑤丁寧に心をこめて笠をかぶせている様子が読み手に迫ってくるのはどちらか。

付表2 説明的文章の理解問題

- ①(A)のどこを読んでお爺さんとお婆さんのやさしさがわかりましたか。

付表3

A) 理解問題

- 1) おじいさんが、じぞうさまに気付いたとき雪はどの位降っていましたか。
(たくさん・少し)
- 2) じぞうさまは、どのようにして立っていましたか。
(にこにこして・寒そうにして)
- 3) おじいさんは、かさをどのようにしてかぶせてあげましたか。
(一つ一つ丁寧にひもを結んだ・頭の上にとんとんおせていった)
- 4) おじいさんは、最後のじぞうさまに何をかぶせてあげましたか。
(自分のかぶっていたかさ・自分のかぶっていたつぎはぎの手ぬぐい)
- 5) どうして、おじいさんはやさしいと思いましたか。
(言っていたから・かさを売りにいったから・じぞうさまにかさをかぶせてあげたから)
- 6) どうして、おばあさんはやさしいと思いましたか。
(言っていたから・かさをあんだから・おじいさんがじぞうさまにかさをかぶせたこと)

を聞いて誉めたから)

付表4

B) 心情テスト

- 1) おじいさんは、かさが売れなかった時どうしましたか。
(しょんぼりして帰った・喜んで帰った)
- 2) おじいさんは、かさが売れなくて、町から帰りましたが、その時何を考えていましたか。
(おばあさんはがっかりするだろう・おばあさんは怒ってしまうだろう)
- 3) おじいさんは、どうして最後のじぞうさまに、自分の分をかぶせてあげたのですか。
(自分はあったかかったから・自分も寒いけどじぞうさまも寒そうだから)
- 4) じぞうさまにかさをかぶせてあげたと聞いて、おばあさんはどう思いましたか。
(もったいない事をした・良い事をした)

付表5

C) イメージ

おじいさん(おばあさん)についてどう思いますか。

- 1) (好き・普通・嫌い)
 - 2) (正しい・普通・間違った)
 - 3) (良い・普通・悪い)
 - 4) (かわいそうな・普通・かわいそうでない)
 - 5) (明るい・普通・暗い)
 - 6) (優しい・普通・恐い)
- おじいさんとおばあさんの生活は、どんな様子でしたか。
- 7) (ぜいたく・普通・貧乏)
 - 8) (仲がよい・普通・仲が悪い)
 - 9) (楽しい・普通・苦しい)
- おじいさんは、かさを売る時どの位頑張りましたか。
- 10) (いっぱい・普通・少し)
- おじいさんは、どのように雪の中を歩いていましたか。

付表6

D) 感想

- 1) おじいさんみたいになりたいですか。
(なりたい・どちらでもよい・なりたくない)
- 2) おばあさんみたいになりたいですか。
(なりたい・どちらでもよい・なりたくない)

付 記

実験者の白川明美氏、松山私立愛媛幼稚園園長先生、諸先生、園児達、愛媛大学教育学部3
4回生の皆様(順不同)に、いろいろお世話になりましたことを心より深く感謝致します。